一九二三（大正12）年、関東大震災が起きて、東京は焼け野原になってしまった。森太郎は、佐久の自転車を買い集めると、自動車に積んで東京でお世話になった店や、人々に自転車を送って、たいへん感謝された。これをきっかけにトラックを買って、佐久から東京へ荷物を運んで、東京の復興につくした。

●小池自動車の発展

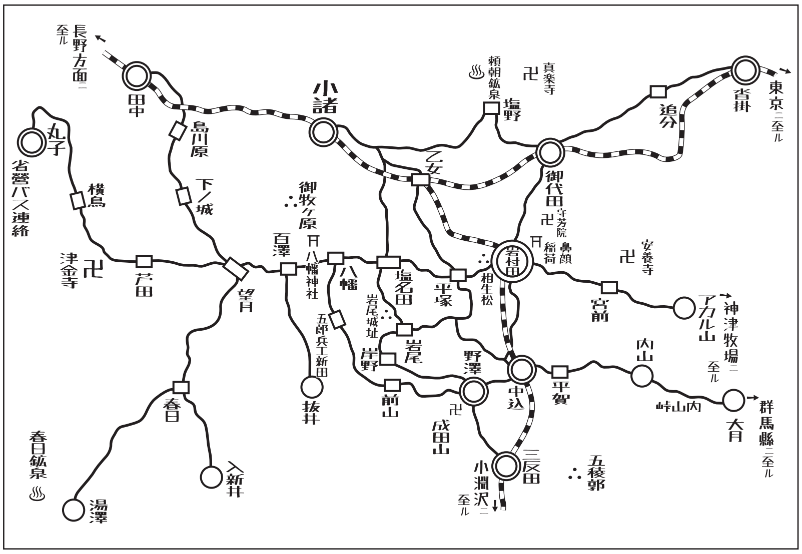
一九二六（大正15）年、野沢の城山館で小池自動車株式会社（資本金八万円）の創立総会が開かれた。ここで森太郎は社長となり、常務に相馬朝四郎、取締役に小池豊次郎らが就いた。

それまでの乗合自動車は、五人～七人乗りの小型車であったが、流線型でスピードが出る、大型で乗心地の良いバスを走らせ始めた。路線のどこでも手を挙げれば乗ることができ、制服を着た車掌がお客をやさしく扱ったので、利用する人が増えた。また、信越線御代田駅に上野から午後一〇時二分に着く客を、三反田（今の臼田駅）まで運ぶなどの便をはかった。

一九二八（昭和3）年には自動車二四台をもつまでになり、純利益一万五八〇〇円余をあげるほどの会社に成長した。小池自動車の発展により、佐久地方の人々の交通の便が良くなり、各地に乗合自動車会社が相次いで誕生した。この年には

小海自動車㈱	小海駅─海ノ口間
一山小商会㈴	中込駅─内山間
山鉄自動車㈴	臼田─小海駅間
川西自動車㈱	芦田─畦田─滋野─島河原間
菱野自動車	小諸─菱平間
箱根土地㈱	軽井沢─沓掛─千ヶ滝

のほか、大日向・志賀・星野温泉へと山間部まで乗合自動車が走るようになった。



1936（昭和11）年当時の小池自動車路線網

●千曲自動車へ

森太郎は、病のため一九三一（昭和6）年に社長を退いて、東京根岸の病院で治療を続けていたが、一九三三（昭和8）年六月九日に帰らぬ人となった。四六歳の若さであった。

自転車や自動車のスピードにあこがれた森太郎は、周りに先駆（さきが）けて自転車の曲乗りや修理の技術を身に付け、自動車の運転免許を取った、機械や新しいもの好きな人であったといえる。

自分の好きな乗物を楽しむだけでなく、それを事業として利益を上げるまで発展させ、大正から昭和初期にかけての、佐久地方における乗合自動車の黄金時代を出現させたのは、小池森太郎の功績である。

小池自動車はその後も路線を拡大し、千曲自動車㈱から千曲バス㈱へ社名は変わったが、佐久地方や上田小県地方のバス会社として、多くの人々の通学・通勤や買い物客・病院へ通う人々のために便宜（べんぎ）を与え続けている。

（小林收）

・・・・・・・・・・・・・・

参考文献

「小池自動車株式会社決算書」

大井隆男『図説・佐久の歴史 下巻』郷土出版社

佐久の先人たち㉘

佐久に自動車交通網を築いた

小池森太郎

（1887～1933年）

自転車のスピードにあこがれ、野沢で自転車店を開いて佐久の人々に自転車を普及させた森太郎は、自動車が走るようになると、乗合自動車やトラックを走らせて人々に喜ばれ、産業の発展に大きな貢献をした。

●自転車を普及させる

佐久地方で自転車が使われたのは、いつだったであろう。一八九三（明治26）年一一月二日、小諸義塾の木村熊二日記に「試自転車」とあり、五日には「稲垣自転車を修復し来る」と書かれているのが初めてと思われる。

小池森太郎は一八八七（明治20）年野沢に生まれた。若いころ東京に出て自転車店で働き始め、興味をもって乗りまわすうちに、色々な乗り方を覚えた。彼は人が集まる上野の不忍の池のほとりで、自転車競争をしたり、時には曲乗りをしたりしていた。

森太郎は臼田の山下猛弥のすすめもあって、ふるさとの野沢に帰ると、一九一八（大正7）年ごろに自転車店を開いた。当時の人々が移動する方法は、歩くか、馬車に乗る位しかなかったので、自転車のスピードは人気を集めた。しかし自転車は高かったため、買えるのは中古車で、こわれると修理して乗っていた。

自転車は若い男たちの間にたちまち広がり、野沢や岩村田では競争会や遠乗り会が行われるようになった。さらに、自転車にかかっていた税金が、中学校（今の高校）への通学に使う場合は免除されるようになり、佐久地方でも急速に普及した。

●自動車部をつくる

自動車が佐久地方に姿を見せたのは、小諸の小宮山荘助日記に「午前九時東より小諸を始めて自動車通行す」とある一九〇七（明治40）年頃と思われる。その後、東京の内山自動車が、小諸・岩村田・野沢・望月などで自動車試運転を行っている。

自転車の販売と修理をしていた森太郎は、自動車にも興味を持つようになっていたが、アメリカ製の新車はその頃二〇〇〇円～三〇〇〇円もしたため、高くて買うことができなかった。

そんな時に、松代町（現長野市）の小鉄自動車商会が火事になって、車庫にあったフォードの五人乗りの車が半焼けになった。森太郎はこの車を安く買うと、修理して磨き、動くようにして乗り始めた。

一九一九（大正8）年、岩村田の市川正令ら四人が佐久自動車商会をつくり、小諸―岩村田―臼田間と岩村田―望月間で乗合自動車の営業を始めた。森太郎はこれに加わり、翌九年に小池自動車部をつくって、野沢―岩村田間を一日一二回運転した。さらに路線をのばし、小諸―塩名田―中込や望月―田中など、鉄道が通っていない村々にも走らせたので、ほかの路線より高い運賃でも乗る人が多かった。自動車部の収入は増え、新しい自動車を買い入れることができた。

小池自動車の乗合自動車
（大正中期　井出忠昭氏蔵）